



海を越えて深めた友情

～町ジュニア海外使節団交流記～

山田中学校の井口亘副校長を団長とした、豊間根中・山田中の2年生8人と山田高の2年生2人、引率者3人の山田町ジュニア海外使節団13人は、1月8日から18日までの11日間、友好都市オランダ王国ザイスト市を訪問しました。

1月8日、オランダに向け元気に山田町を出発した使節団は、9日夕方にアムステルダム空港のスキポール空港に到着。空港では国際交流団体ホフライスのステインスマ会長とハーグ市に住むコニーさん夫妻、ガイドの山口千真さんが、私たちを温かく



引率の小松山浩樹教諭

オランダを訪問した町ジュニア海外使節団（中学生8人、高校生2人）は1月8日から18日までの日程を終え、無事帰国しました。江戸時代にオランダ船ブレンクス号が山田湾に漂着したという史実が縁で始まった同国への派遣も、今年で15回目。生徒10人は友好都市ザイスト市でのホームステイや学校での授業体験を通じ、現地の人たちと友情を深めました。今号では、生徒たちの体験談と併せ、交流の様相を引率の山田中学校の小松山浩樹教諭がレポートします。

出迎えてくれました。

10日は、授業に参加するザイスト市のCLZ校へ。校内を案内された後、盛大な歓迎式が行われました。午後にはザイスト市役所を表敬訪問。ヤンセン市長から歓迎を受けたほか、ザイスト市について学びました。また、同市にあるザイスト城を見学し、中世時代の美しい建造物に心を奪われました。夕方、CLZ校でホストファミリーとの顔合わせの後、生徒たちはそれ





異国に住む同胞に 頑張ることを学ぶ

山田高 荒川奈津美さん

私は、今回の海外派遣で「頑張る」ことについて学んできました。アムステルダムの日本人学校を訪問した時、この学校に通う皆さんが「日本に戻ってから学校生活を頑張りたい」と話していました。さまざまな事情があって現在、日本から遠く離れたオランダで暮らし、一生懸命に学校生活を送っている皆さんが、日本に戻ってから「頑張りたい」と思っていることをとても素晴らしいと思いました。日本に住む私もこの学校の皆さんに負けないうくらい頑張らなければ強く感じました。この体験を生かして残りの学校生活を過ごしていきたいと思います。

皆さんの親切さで 素直になれた自分

山田高 齊藤潤君



今回の研修は、多くのことを学び成長できた旅でした。私は人見知りなため、最初は使節団の仲間やオランダの方々と話すごうできませんでした。しかし、皆さんが親切に接してくれたことで自分自身も素直になれ、学校訪問した際には臆することなく会話ができました。また、ホームステイ先でも、言葉は違っていろいろと語り合うことができ、自分の中で変化を感じ取ることができました。お別れの時、今までの自分ではできなかったエールをみんなの前で贈りました。これが感謝の気持ちでした。今後は、この体験を生かし前進していきたいと思います。

生徒を成長させた 異文化の交流事業

ジュニア海外使節団団長
井口 巨山田中副校長



1月8日から18日までの11日間、私たち海外使節団をオランダに派遣させていただきました。ありがとうございます。そして、この素晴らしい交流事業が今回で15回目を迎えたということに対して、あらためて山田町に敬意を表したいと思います。

今回の主な訪問先であるザイスト市のCLZ校では盛大な歓迎を受けました。また、11日から2日間参加した授業でも、ホームステイ先の生徒と一緒にゴッホの絵をなぞって版画で作ったり、インターネットを使って山田の生徒が日本らしい写真を、ザイストの生徒がオランダらしい写真を選びお互いの交流の証となる写真集を作ったりするなど、CLZ校の私たち使節団に対してのきめ細かい配慮や気遣いが感じられ、生徒たちも楽しんで授業に参加できたのではないかと思います。

また、本交流事業の中心となる一般家庭へのホームステイでは、言葉や文化が違つとどんなに大変なことなのかということも、実際にホームステイをしてみて体感しました。言葉が通じない中で、自分の想いをどうやって相手に伝えるのか。あらためて「伝える」ことの大切さを実感できました。生徒たちも初めは悪戦苦闘していたようですが、片言の英語と手振り身振りで自分の意思を伝えようと努力をしていました。そのかいあって徐々に相手に伝わっていたようでした。10人の生徒たちは、確実にこの体験でたくましく成長したと感じています。この貴重な経験を、多くの人たちにも伝えていきたいと考えております。

主な行動日程

1月8日…本町出発 9日…アムステルダム着 10日…CLZ校で歓迎セレモニー／ザイスト市役所表敬訪問／ザイスト城見学／ホームステイ先へ（15日までザイスト市内でホームステイ） 11日～12日…CLZ校の授業に参加 13日…アムステルダム日本人学校訪問／国立博物館、ゴッホ美術館見学 14日…在蘭日本大使館表敬訪問／コニーさん宅でランチ／ザンセスカンス風車村見学／CLZ校お別れパーティー 15日…終日ホストファミリーと過ごす 16日…アンネ・フランクハウス／アムステルダム発 18日…帰町

テイが開かれました。学校関係者やホスト

ファミリーなど大勢が参加して行われたパーティでは、ビデオで山田の各学校を紹介した後、この日のために練習してきた「よきこいソーラン」を生徒全員で披露。会場からは大きな拍手が贈られました。そのあと両校の生徒らは、デイスコダンスでさらに親交を深めていきました。

それぞれの滞在先へと向かいました。翌11日と12日はCLZ校の授業に参加。生徒たちは、この日のために学んだ英語やオランダ語にジェスチャーを交え、悪戦苦闘しながらもオランダの生徒との交流を楽しみました。13日にアムステルダムの日本人学校を訪問し、異国の地で日本語での交流に話が弾みました。14日は、ハーグ市の在蘭日本大使館を訪問。昼食はコニーさん宅で伝統の家庭料理をごちそうになりました。その後アムステルダムのザンセスカンスの「風車の村」を見学しました。夕方にはCLZ校でお別れパーティ

15日にホストファミリーと一日過ごした一行は、翌16日にはお世話になった皆さんとお別れ。海を越えて交流を深めた友との別れはつらいものとなりました。その後「アンネの家」を見学した使節団は、スキポール空港へ到着。多くの出会いや思い出を心に刻み、遠く離れた地で掛け替えのない友を得て、オランダを飛び立ちました。



①CLZ校で「ドラマ」という演劇の授業を初体験しました／②ザイスト城の美しさに見とれる皆さん
③歓迎のお礼にヤンセン市長にタバストリーをプレゼント／④鶴の折り方をCLZ校の生徒に指導しました／⑤「風車の村」で大迫力の風車群を見学



ディスコダンスで 楽しんだお別れ会

山田中 清水野 ^{いさむ} 勇君

この海外派遣の中で一番の思い出となったのは、ホストファミリーとお別れ会でした。この会では、みんなで食事をしてプレゼントを交換するくらいで終わってしまうものだと思っていましたが、CLZ校のイングリット先生の発案で、若者がパーティーのときに決まって踊るディスコダンスをみんなで踊りました。最初は恥ずかしくて乗り気ではなかったのですが、ホストフレンドから踊り方を教わりながら音楽に合わせて踊りだしてみると、だんだん楽しくなってきました。最後には、終わりたいくないと思うくらい楽しい思い出ができました。



異国の景観に触れ 山田の良さ再認識

山田中 菊池 ^{みき} 美紀さん

今回のオランダ派遣では、街全体が一つのレンガ造りの建物に思えるような非常に温かみのある街並みに触れました。その一方で、ビルやサッカースタジアムなどの近代的な建物は、アートにこだわっていて対照的に感じました。その景観を保っているのもオランダの景観に関する厳しい規則を守る努力があるからだと思います。この派遣を通じてオランダの人々が自分の国に誇りを持っていることを感じ、それと同時に日本そして山田の良さも再認識できました。日本を離れ、オランダで過ごした日々は掛け替えのないものであり、この体験を将来につなげていきたいと思っています。

CLZ校での授業 文化の違いに驚く

山田中 佐々木 ^{みお} 滯さん

私は、オランダザイスト市にあるCLZ校で3つの相違点に驚きました。まず一つは授業での挙手の仕方です。日本では手を挙げますが、こちらでは人差し指を立てて発言していました。二つ目は授業のたびに教室が変わることです。日本では、音楽や体育以外に教室を移動しないので、貴重な体験ができました。最後はみんなが親切に話し掛けてくれることです。廊下ですれ違うだけでも「こんにちは」などと声を掛けてくれます。明るくフレンドリーなところがとても良いと思いました。言葉は通じなかったけれど、笑顔で接して心で通じ合えたのかなと思っています。





笑顔で心通じ合い より一層絆深める

豊間根中 佐々木 柚紀さん

オランダで過ごした8日間は
とても短く掛け替えのないもの
でした。その中で一番心に残っ
ているのがホームステイです。

最初は緊張と不安で胸が張り裂けそうでしたが、ホストファミリーは私を温かく迎え入れてくれたので、気持ちが楽になりました。言葉や文化の違いはありますが、一つだけ共通しているものがあります。それは「笑顔」です。笑顔で相手に接すれば絆が深まり、心が通じ合えると感じました。笑顔はどの国でも変わらないものだと思います。これからは、海外派遣で得た経験を生かして自分自身を向上させていこうと思います。



優しくしてくれた ホストファミリー

豊間根中 佐々木 千寿瑠さん

「チヅル」。オランダでは「ツ」の発音があまりないため、私の名前はとても言いにくかったようです。初めてのホームステイは不安でしたが、私の名前を何回も呼んだり書いたりして覚えてもらえたことがうれしくて、不安は安心感に変わりました。文化や言葉の違いを感じながらも楽しく過ごせたのは、優しく接してくれたホストファミリーのおかげです。6日間お世話になって、一度もホームシックにかかりませんでした。言葉は通じなくても心は通じるのだと実感しました。これからは、体験してきたことを生かして、周りの人に優しくできるような人になりたいと思います。

有名な画家の絵を 間近で見学し感激

山田中 足垣 匡洋君



僕たち海外使節団は、13日に2つの美術館に行きました。最初に訪れたのは「国立博物館」です。ここでは、オランダの歴史を描いた絵や模型が展示してありました。レンブラントなど有名な画家の絵もたくさんあり、本物を間近で見られて感激しました。その中で印象的だったのが、文字を書き残すことができなかった時代に、当時の出来事を絵に描いて残したという作品でした。次に訪れたゴッホ美術館では、初めて知らされたことがありました。それは、ゴッホの絵は生前にはまったく売れずに、亡くなってから売れたということです。有名な画家なのにとっても残念に思いました。

お別れパーティーで両校一緒に「ふるさと」を合唱（写真右）／ホストファミリーに感謝の意を込めたエールを贈りました



海外派遣で感じた 心で通じる大切さ

山田中 佐藤 清さん

英語も話せず期待と不安を抱きながらの出発となった海外派遣。私が一番心配していたのがホストファミリーの家に泊まる

ことでしたが、出会ってすぐニコッと笑い「Hi, Kiyora」と呼んでくれた瞬間に私の中にあった不安が一瞬で消えました。まるで家族のように接してくれたことがとてもうれしく、その優しさ笑顔は一生忘れません。言葉や文化、習慣が違って、心と心で通じ合うことが大切だということを実感したオランダ訪問でした。ホームステイで得られた素晴らしい体験をみんなに伝えていきたいと思えます。そしてこの機会をくれた皆さんに感謝します。

自由な学校生活の 良い習慣学びたい

山田中 佐々木 七海さん

日本とオランダの学校では大きく違う点がいくつかありました。その中で一番驚いたのは、休み時間が多いことです。CL

Z校では、昼休みのほかに2回休憩時間があって、その時間にお菓子やパンを食べたりしていました。学校にもジュースやお菓子の自動販売機があって、日本でも設置してほしいと思いました。また、授業中におしゃべりをしたり手紙の交換をしても先生は怒らず、中には教科書を準備しない人もいて、なんて自由な学校なんだと感じました。その一方で、自ら進んで宿題をしていた生徒もいたので、良い習慣は見習いたいなと感じてきました。

